

## 1 部門目標

- ・患者の検査待ち時間短縮のため、検査室の効率的な運用に努める。
- ・各モダリティの専門性を高めるため、学会・研究会への参加を進める。
- ・検査の質の向上のための調査・研究を行う。

## 2 業務体制・スタッフ

業務体制は、日勤業務と夜間業務（準夜・深夜勤、当直）1名、休日業務（日直）1名の体制で行っている。また、夜間・休日は待機者1名を置き緊急検査に対応している。

この業務体制のもと、一般撮影室2室・CT室1室・X線テレビ室2室・乳房撮影室1室・MRI検査室1室・血管撮影室1室・核医学検査室1室・ポータブル撮影装置3台・手術室イメージ2台、リニアック1台、治療用CTシミュレータ1台を、常勤の診療放射線技師13名、非常勤診療放射線技師4名(会計年度任用職員)、受付業務4名(会計年度任用職員)、総勢21名のスタッフで対応している。

## 3 業務実績

	令和2年	令和3年	令和4年	率(R3→R4)
CT	9,452	9,800	9,482	-3.2%
MRI	2,363	2,668	2,697	1.1%
核医学検査	228	209	206	-1.4%
血管撮影	434	554	660	19.1%
乳房撮影	1,019	753	695	-7.7%
一般撮影(他)	29,580	25,814	26,047	0.9%
合計	43,076	39,798	39,787	0.0%

## 4 1年間の総括

令和4年度の総検査件数は39,787件で、前年度に比べ12件減少した。令和4年度も令和3年度に続き、新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の第7波、第8波があり、入院及び外来の受入など診療状況が度々変更となる中、検査件数を維持することができた。

各モダリティ別の検査件数は、CT:9,482件、MRI:2,697件、核医学検査:206件、血管撮影:660件、乳房撮影:695件、一般撮影他:26,047件で、令和3年度と比較してそれぞれ312件減(-3.2%)、29件増(+1.1%)、3件減(-1.4%)、106件増(+19.1%)、58件減(-7.7%)、233件増(+0.9%)であった。血管撮影は令和2年度の循環器内科医の増員以降、検査件数の増加が続いており、経皮的冠動脈形成術(PCI)の件数も277件(46件、19.9%増)となった。乳房撮影は、新型コロナウイルス感染症(COVID-19)による受診控えも影響し695件(58件、7.7%減)と減少が続いている。

令和4年度は、脳神経外科の診療体制の構築のため手術室内に血管撮影室の整備を行い、令和5年3月に脳血管内治療に対応可能なバイプレーンX線血管撮影装置(PILLIPS社

製 Azurion 7 B20/15) を新たに導入した。また、脳血管内治療の検査体制構築のためスタッフの研修を行った。

令和3年4月に施行された改正電離放射線障害防止規則に対応するため、放射線業務従事者防護メガネの利用促進および防護メガネ内側での適切な線量測定を実施した。

## 5 今後の目標

新型コロナウイルス感染症の状況に応じた検査体制の構築を行うと共に、引き続き安心・安全な検査の実施を目指して取組みを継続する。

脳神経外科の本格的な診療開始に対応するため、院内各部門と協力しながら脳卒中患者への迅速な対応を含めた診療体制の構築、脳血管内治療の体制整備を進めていく。

新病院の基本設計が進み、放射線関連の検査機器の整備スケジュールも示されていることから、最新の検査機器および検査技術の習得のため、学会、研究会等への参加を進め、スタッフの教育を進めていく。また、検査機器の更新も新病院での導入計画と検査機器の安定稼働などを優先しながら計画的な更新スケジュールの立案を行っていく予定である。